

手に

1

松の木のあひだから
はるか眼下に岩を噛み
川のまがりかどが見えてゐる
吹きあげてきて
手にふれるもの
つめたく 白く
松葉ではなくて小さい釘であつた
空に向けて
いつせいに飛び立つて行つた
何千本もの
何万本もの
線を描いて

2

山の中の家の屋根に
材木のやうな釘がのしかかりはじめた
別の何本もの釘が家につきささつたりしはじめた
重さを増したので家はつぶれた
見えてゐた読書人の姿も
窓がかしぎ 机が持ちあがつて
しばらくは見えなくなつた
あとからあとから 釘は押し出して来て
乱れて重なりあつてゆく
狂つたやうな叫び声
青ざめた白っぽい顔
ぴかぴかした釘が柵をつくつてゐる
その人の肉体のどこからか血が流れてゐる
両手で押しのけようとしてゐるが
釘には油がついてゐるし 太くて 頑丈だから
どの一本も びくともしない
釘はどんどん重なるばかり
本が一冊 釘のあひだにはさまつてゆがんでゐる
山の中は夕暮に近くなつてきた
しかし 空の雲は
まだ 綿のやうに白い

ちらり ほらり 雪も舞ひはじめた道の行く手
旅をして居りますと奇妙な景色を見ることもござります
黒くどつしりとのしかかる大きい山の肩のあたりに
垂直に太い一本の釘が立つてゐるのが見えました
中空で釘の頭が
ゆらゆらとしてゐました
山の地盤がやはらかいのでせうか
釘の先が少しつつ山にめりこんで行くではありませんか
おそろしいので 麓の村に帰りました
地ひびきもなく静かな夜でござりました